

<メディアウオッチ> 「ビルマ」の国名にこだわるスーチーさんの矜持

上出 義樹

鋭い軍政批判交え東京で記者会見

日本政府の招待で来日したビルマの最大野党・国民民主連盟（NLD）党首のアウン・サン・スーチーさんが4月17日、千代田区の日本記者クラブで開かれた記者会見＝写真、上出義樹撮影＝に臨んだ。スーチーさんは時折鋭い軍政批判も交え、会場からの質問にも一問一問誠実に答えた。

国民に何の相談もなく突然決まった「ミャンマー」の国名

とくにスーチーさんの矜持（きょうじ）を感じたのは、日本のマスコミなども使っている「ミャンマー」の国名に対し、「（1989年に）ビルマの軍政が国民に何の相談もなく決めた呼称」と指弾し、それまで使われていた国名である「ビルマ」へのこだわりを、質問に答える形であらためて表明したことである。

実は、「ミャンマー」がビルマ語由来なのに対し、英語由来の「ビルマ」には、英国植民時代の名残りとの批判がある。スーチーさんはそれを認めつつも、軍政がある日突然、国名を勝手に変えたことに憤っているのである。

官制の呼称を安易に受け入れる日本のマスコミ

スーチーさんを見倣うように、BBCやワシントン・ポスト紙など、現在も、「ビルマ」の国名を使うメディアが海外では少なくない。それに比べ、日本のマスコミは官制の表記に安易に従う傾向が強いが、スーチーさんの今も変わらぬこだわりは、かつてのビルマ担当記者として、わが意を得たりである。



（かみで・よしき）北海道新聞でシンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程（新聞学専攻）在学中。